

自衛官候補生修了式 家族や広報官に成長した姿を披露



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は6月23日（日）、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）で行われた令和6年度自衛官候補生課程修了式に参加した。

自衛官候補生たちが入隊して約3カ月。自衛官になるための最初の教育を終え、皆晴れ晴れとした表情で会場の体育館に集まった。

来賓や参列者が見守る中行われた修了式では、候補生たちが声高らかに宣誓を行い、84人が正式な自衛官である2等陸士に任命された。また、優秀な成績を収めた隊員の表彰では、沼津市から入隊した伊藤玖大2等陸士が連隊長賞を受賞した。

第34普通科連隊長・兜智之1等陸佐は式辞で「課程教育修了おめでとう。同期とともに悩みや困難を克服した真摯なる努力に心より敬意を表する。ここ板妻で学んだ正しい知識や技能の練磨に引き続きまい進することを強く要望する」と激励した。

この日は隊員の家族や友人、入隊をサポートした広報官も訪れ、陸上自衛官の制服に身を包んだ隊員たちと久しぶりの再会を果たした。

広報官から教育期間の感想を聞かれた隊員は、「たくましく成長したと思います。仲間と一緒にいろいろな経験ができて、本当に楽しかったです」と笑顔で報告した。

また、連隊長賞を受賞した伊藤2士は「頑張りました。体力だけはあるので、けがをしないよう気を付けて、普通科隊員になれるよう引き続き頑張ります」と熱い意気込みを語った。

隊員たちは今後それぞれの後期教育部隊に進み、さらに訓練に励んでいく。静岡地本は、今後も入隊者との繋がり大切に、隊員や家族のサポートに努めていく。

12年ぶり 清水港で水中処分母船の体験航海を実施

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は7月6日（土）、清水港（静岡市）において海上自衛隊水中処分母船3号の体験航海を行った。同港で海自艦艇が体験航海を行うのは12年ぶり。

当日は中学生から大学生とその保護者など100人が、3回に分かれて乗船した。参加者は甲板から出港作業の様子を見学し、岸壁に並んだ自衛官や家族に向かって笑顔で手を振っていた。

出港した船は、うっすらと見える富士山を左手に沖へ向かい、景勝地として有名な三保の松原を眺めながら戻るルートで約1時間の体験航海を行った。

航海中は、船長が指示を出す船橋や隊員の憩いの場である食堂、周囲を見渡せる甲板などを自由に見学した。特に船橋では、高倍率の双眼鏡を使って周囲の船を警戒する様子や、船長の確に指示を出して乗員が船を操縦する姿などを間近で見ることができ、参加者は「自衛隊の海図は普通のものとは違うんですか」「この道具は何をするためのものですか」と質問を投げかけ、船の仕事や自衛隊の職場に興味を示していた。

また、2回目の体験航海では高校3年生の男子生徒が1日船長に就任した。海上自衛官の制服上衣と帽子を着用して船橋にある船長席に座り、「出航用意」の号令など船長の仕事を体験した。

静岡地本は、今後も部隊と協力し、自衛官の仕事を知ってもらえるよう広報活動を行っていく。

